

令和3年10月29日

保護者・地域の皆様

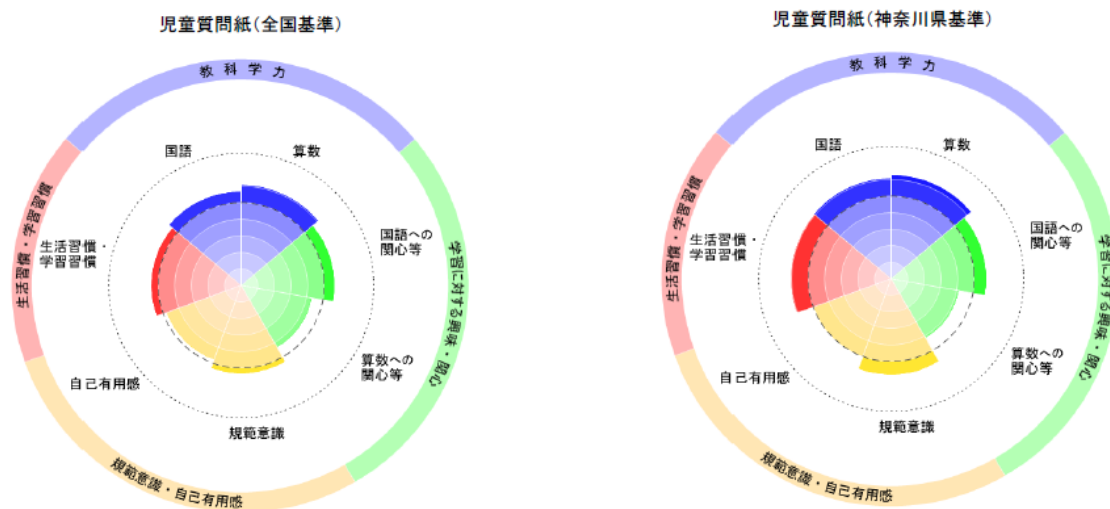
横浜市立小山台小学校
校長 椎名 哲也

全国学力・学習状況調査の結果について

令和3年5月に6年生を対象に実施した、全国学力・学習状況調査の結果がまとまりました。この調査結果を踏まえ、今後の本校としての取組についてご報告いたします。

なお、今回の調査により測定できるのは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面です。また、6年生の平均と全国・神奈川県の前年との平均とを比較しての結果を記述しましたので、個々の児童の結果とは異なります。学校といたしましても、この調査結果を客観的資料の一つとして受け止め、個々の児童の結果も分析し、引き続き児童一人ひとりの学力向上に取り組んでまいります。

地域・保護者の皆様には、本調査の趣旨を十分にご理解いただき、結果についてご覧いただきますようお願いいたします。



----- が平均値になります。

1 国語科・算数科の結果（上記のチャート等をもとにした傾向）

国語科は全国、神奈川県の前年よりも高い傾向です。

- ・「書くこと」「話すこと、聞くこと」の項目がよくできていました。
- ・「読むこと」「言語事項」について課題が見られました。

算数科は全国、神奈川県の前年よりも高い傾向です。

- ・どの内容も平均を上回っています。とくに、「図形」「数と計算」がよくできていました。
- ・解答の根拠となる自分の考えを記述する問題に課題が見られました。

(裏面もご覧ください)

2 改善の手立て

国語科

- ・獲得した言語の知識を活用して話す内容を考えたり、正しく読んだりすることができています。さらに、場面に合わせて敬語を使い分けられることができる力を国語科の学習だけでなく、学校生活全般で機会をとらえ、身に付けられるよう支援していきます。
- ・読書が好きである児童が比較的多いことから、文章を読み取る目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約するような学習活動を充実させていきます。

算数科

- ・目的に応じてグラフや表などの必要な資料を収集し、その特徴や傾向を読みとり、それらに関連付け、一つの資料からは判断できない事柄について多面的に判断できるような学習に力を入れます。
- ・問題を解き解答を導くだけでなく、その過程をどのように考え工夫したのか、自分の言葉で説明できる時間を確保し、論理的に表現する力を高める活動を充実させていきます。

3 生活に関する意識について

全体的には、全国・神奈川県と同じような傾向にありますが、本校の児童の意識として、次のような特徴がみられましたのでご報告いたします。

よさととらえられる面

- ・将来の夢や目標をもっている。
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。
- ・所有する本の冊数が多い。
- ・地域や社会をよくするために自分が何をすべきか考えることがある。
- ・人の役に立つ人間になりたい。

この望ましい傾向がさらに生かされるように支援を続けます。

課題としてとらえられる面

- ・学習を日常の中で活用していると感じられていない。
- ・道徳で自分の考えを深められたという実感が少ない。
- ・やると決めたことを最後までやり遂げたと思える経験が少ない。

重点研究として取り組んでいる算数科でも、課題の提示の仕方をどのように日常とつないでいくのかを工夫しているところです。新型コロナウイルス感染予防の観点から、今年度も児童の話し合いの活動が少なくなっています。互いの考え、意見の交流の方法について今後も検討を進めていきます。また、係や児童会の活動も様子を見ながら取り組んでいる状況です。日々の活動の中で設定している目標や課題の達成状況について見直しを適宜行いながら、達成感を味わうことができる活動となるよう支援していきます。